

# 知恵を出し合い、汗を流して

産業の複合化による地域経済の活性化をめざして

## 森が生きている 林業

森林面積は五〇、一四〇ヘクタールで、町の全面積の九二%を山林が占めています。そのうち国、道有林が約八六%、民有林はわずかに四パーセントにすぎません。

林業の生産は、国・道有林のブナなど天然林に依存していますが、素材生産量の減少、外材の輸入、木材市況の低迷、林業従事者の減少などによって林業経営は厳しい状況におかれています。

環境を保全、形成する要素である「森林」を支え、森林の持つ公益的機能を発揮させるため、間伐的的確な実施、植栽に対する支援を行っているほか、「魚を育む森」造成などのため、緑の回廊構想を進化させた「日本海グリーンベルト構想」を積極的に推進しています。

また、平成元年には町民の要望が実現し、約十ヘクタールの道南の典型的なブナ原生林(宮越地区)が伐採を免れ、北海道の保護林指定を受けました。



Part.2



# 遅い群像が 生きている 商工業

## ●一五次産業

本町の一五次産業は、イカ、ホッケなどの薫製や生干し、手作りみそなど知恵を絞ったふるさと志向の自然健康食品が主流です。

また、本町で養殖されている「アワビ」は、風力発電のクリーンなエネルギーと、自然の海「海洋牧場の養殖いけす」で育てられ、味や歯ごたえも天然ものと比較して遜色がないと、人気を集めています。

## ●商業

本町の商業は、交通手段の発達などによって近郊の江差町や函館市に購買力が流出しています。駅前地区に形成された商店街が一定の歯止めをかけておりますが、上ノ国中央商店街協同組合と連携を図りながら、より快適な買い物環境づくりを目指しています。

また、毎年十月には、本町の産業や商工業の振興・発展を目指して「産業まつり」を開催しており、町内外から多くの方が訪れ、にぎわいを見せています。

